



2024年を迎えました。皆さんにとって2023年はどのような1年だったでしょうか。

この牧師感話を手にとって読んでくださる皆さんの上に、新年も神様の恵みと平安がありますようにお祈りいたします。新年もどうぞよろしくお祈りいたします。

昨年の12月に、家族で三豊市にある庄内半島に行きました。紫雲出山の途中までは車で行くことができ、駐車場からは歩いてそれほど時間はかからずに山頂に至ります。山頂の展望台まで行きますと、竪穴式住居などの高地性集落遺跡がありました。遺跡館は閉まっていたので、館内の喫茶コーナーから景色を見ることができませんでしたが、近くの展望台からは美しい瀬戸内海や島々もよく見えて、「向こうに見える島はもう岡山県、あちらの島は広島県です。」と、そこでお会いした方が説明してくださいました。小学校では5年生で、日本の都道府県の位置を学習し、暗記して覚える必要があるそうです。新年に入って、石川県を初めとして、北陸地方では地震と津波が発生し、この牧師感話を書いている時点でも、能登半島を中止に継続して余震が続いています。被災された方々や被災した地域の上に、迅速な復旧と復興を祈るばかりです。予想もしなかったさまざまな出来事が立て続けにニュースとなっています。

昨年一年間を振り返って、日本は危機的な状況の中にあることを実感した一年間でした。ここで詳しいことを一つ一つ説明することはしませんが、この日本は果たしてどこに向かっているでしょうか。このような時代にあって、私たちの「いのちの尊厳」が守られることを願ってやみません。それでは「いのち」はなぜ大切なのでしょうか。

聖書には、神様が人を創造して下さり、「いのちの息」を吹き込まれて「生きるもの」となったことが書かれています（創世記2:7参照）。いのちは神様が与えてくださった贈り物です。ですから、私たちが「生きて人生を歩んでいる」ということ自体、神様の恵みであり、奇蹟であって、厳密には「生かされて人生を歩ませていただいている」ということです。また同じ創世記の1章27-28節には次のように書かれています。

「神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。神は彼らを祝福された。『生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。』」

上記のことばによると、私たち人間は神様の「かたち」に造られました。「かたち」と言っても神様は私たちの肉眼で目に見える姿を持っておられませんので、それは外面的な形ではありません。「神のかたち」というのは、目に見える形ではなく、目に見えない「かたち」です。つまり、神様が人格を持っておられ、知性や感情、意志を持っておられるように、私たちも、それらを持つ者として造られているということです。

人間は神様ではありませんし、神様になることもできません。神様が知性や感情また意思を持っておられるように、人間も人格を持つものとして、神様によって創造された存在が私たち人間であると聖書は教えています。私たちは、偶然にこの世に存在しているのではなく、私たちは神様によってこの世に「生」を与えられ、神様によって日々、生かされています。神様がこの世界を創造されましたが、人間の場合には特別な深い配慮と愛をもって、神に似せて、神にかたどって私たち人間が造られたというのです。また、神様から離れてしまっている状態であることも聖書は語ります。

聖書のテーマの一つ、神様が与えてくださるものは「私たちの主イエス・キリストにある永遠のいのち」です。イエス・キリストの十字架の死と復活を通して、信仰によって与えられる永遠のいのちをいただくためにも、「今のいのちがなぜあるのか」、「なぜ存在するのか」、「このいのちはどこに向かっているのか」という問いかけを通して、いのちについてさらに深く考え、聖書からその根本的な答えを見出して歩む年とさせていただきます。新しい年、聖書を通して生きておられる神様のことばに親しみ、神様の素晴らしさと偉大さを知ることができますようにお祈りいたします。